

越前町
一般家庭系可燃ごみ組成調査
結果報告書

令和4年2月

越 前 町

目 次

第1章 調査概要

1 調査目的	1
2 調査内容	1
3 調査対象地区及び調査実施日	1
4 調査方法等	1～2

第2章 調査結果

1 越前町ごみ組成	3
2 地区別ごみ組成	7
3 組成調査結果	1 1
4 調査から見てきた越前町の課題	1 2

第3章 資料等

1 一般家庭系可燃ごみ組成調査集計表（A3版）	
2 分類別地区別集計表	
3 ごみステーション数及び1ステーションあたり回収重量	
4 地区別食品ロス内訳表（A3版）	

第1章 調査概要

1 調査目的

この調査は、一般家庭から排出される可燃ごみの組成割合を調査することによって、ごみの排出状況や資源物の混入状況を把握するとともに、ごみの減量化とリサイクル推進のための基礎データを取得することを目的とする。

2 調査内容

町内の一般家庭から出される可燃ごみを収集地区別に採取し、ごみ組成を調査した。調査結果は、以下の点に基づき町全体及び地区別に整理した。

○組成調査結果

○食品ロスの割合

○リサイクル対象ごみの割合

3 調査対象地区及び調査実施日

本調査の調査対象地域及び調査実施日は、表1に示す通りとした。

表1

地区名	ごみステーション数及び収集業者	調査実施日
朝日地区	朝日B地区 【朝日団地、宇田、漆本、頭谷、横山、牛越、野末、大畑、上野田団地、大谷寺、中野、大玉、清水、森、杖立、小川、真木、天谷】 ごみステーション数：44 箇所	令和3年11月29日
宮崎地区	宮崎地区全域 ごみステーション数：62 箇所	令和3年12月3日
越前地区	越前地区全域 ごみステーション数：51 箇所	令和3年12月8日
織田地区	織田地区全域 ごみステーション数：58 箇所	令和3年12月6日、10日

*朝日A地区は、令和4年度実施予定

4 調査方法等

(1) サンプルの回収方法

可燃ごみは臭気上の問題等から即日調査する必要があることや地区ごとに収集体制が異なることから調査対象を4地区とし、対象地区全てのごみステーションから無作為に1袋ずつサンプルを回収し調査を行った。

(2) 調査作業場所

収集業者が所有する敷地内で行った。

(3) 調査方法

今回の調査は、湿重量ベースで行い、調査品目の分類を表2で示す通りとした。
分類作業を行う際は、収集したごみの総重量を計測し、計測したごみはごみ袋から
出し、分類表の項目ごとに重量を計測し、組成割合の算出を行った。

表2 一般家庭系可燃ごみ組成調査分類

大分別	中分類	細分類	内容
食品廃棄物	手付かずの食品	賞味期限が切れている食材	賞味期限の表示があり、それを過ぎているもの
		期限内	賞味期限の表示があり、それ以内のもの
		判読不明	賞味期限のある食材で印字が見えない等判読できないもの
		消費期限が切れている食材	消費期限の表示があり、それを過ぎているもの
		期限内	消費期限の表示があり、それ以内のもの
		判読不明	消費期限のある食材で印字が見えない等判読できないもの
	その他の食材(袋や箱に入っていない、原形を5割以上占めている)		上記6分類に当てはまらないもの
	食べ残し	主食	ごはん、パン、麺類等
		主菜	野菜、海藻、卵、魚介類、肉等のおかず
		揚げ物	天ぷら、フライ等
		その他	お菓子、果物等
		主食	ごはん、パン、麺類等
		主菜	野菜、海藻、卵、魚介類、肉等のおかず
		揚げ物	天ぷら、フライ等
		その他	お菓子、果物等
	調理くず		野菜・果物のくず、骨、卵の殻、ティーバックなどの食べない部分
プラスチック類	容器包装	ペットボトル	リサイクル番号1の飲用ボトル、酒、醤油ボトル
		その他	レジ袋、マヨネーズの容器、シャンプー容器、菓子袋、パック・カップ類 弁当容器、果物ネット、発泡スチロールの緩衝材、 アルミコーティングされた袋類
	非容器包装		プラスチック類のうち、容器包装に当てはまらないもの (金属などが混入していないもの)
紙類	新聞紙		新聞紙
	段ボール		段ボール
	紙パック		紙パック
	おむつ類		紙おむつ
	雑誌		雑誌、書籍
	チラシ		チラシ、広告、パンフレット等
	雑紙	食品の空き箱	食品の空き箱
		ダイレクトメール	ダイレクトメールに封入されている広告、チラシ、パンフレット等
		コピー用紙	コピー用紙、OA紙
		封筒・紙袋	封筒・紙袋
		その他	雑紙のうち、上記4分類に当てはまらないもの
	その他		雑紙のうち、上記6分類に当てはまらないもの
木、竹、わら類	木・草類		剪定枝、草、葉、花、板等
	割りばし		割りばし
繊維類	衣類		衣類
	布類		衣類以外の繊維類
ゴム・皮革類	ゴム・皮革類		ゴム製品、革製品
不燃物	金属類	スチール	スチール缶
		アルミ	アルミ缶
		その他	金属片
	ガラス類		ガラス瓶
			ガラス片
	その他		砂、石、陶器等
有害ごみ	乾電池類		乾電池
	蛍光灯		蛍光灯
	薬品・油脂・塗料		薬品・油脂・塗料
その他			タバコのフィルター、掃除機のごみ

第2章 調査結果

1 越前町全体

①一般家庭系可燃ごみの組成

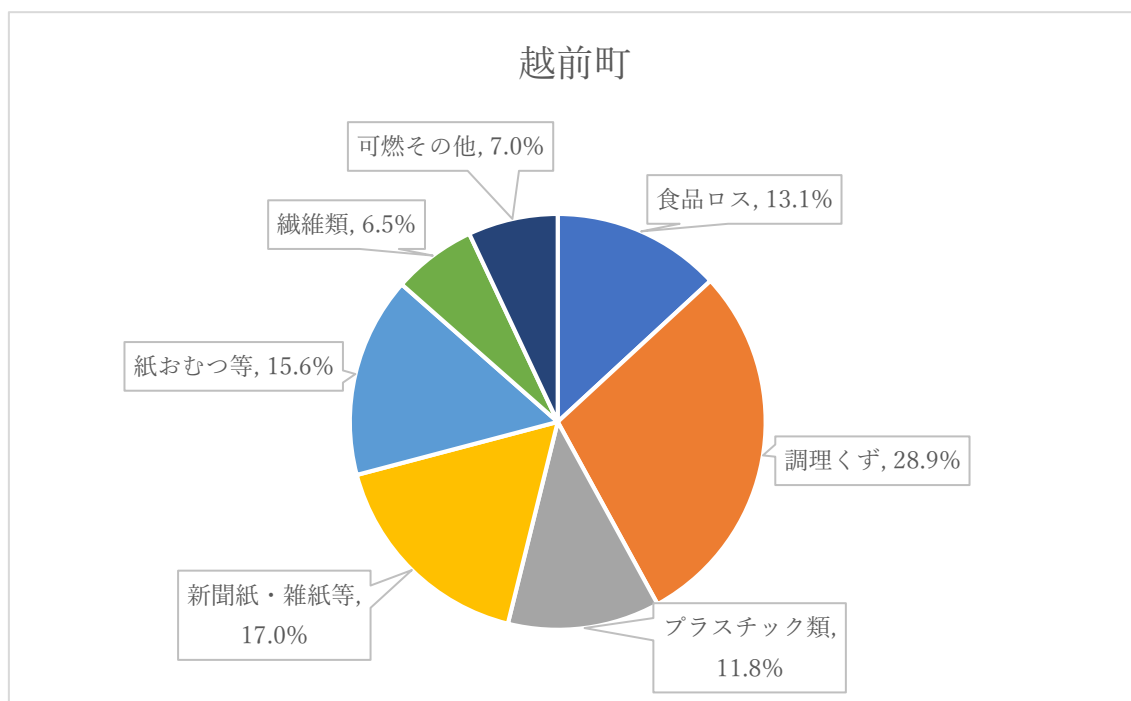
4地区の重量を合計して、越前町全体の構成割合を算出した。表3に越前町全体の組成分析結果、表4に組成割合を示す。

越前町全体では、調理くずが最も多く全体の28.9%を占めている。次いで、新聞・雑誌などが17.0%、紙おむつなどが15.6%となっている。

表3 越前町全体のごみ組成分析結果

分 類	重量 (kg)	組成割合 (%)
食品ロス	111.09	13.1
調理くず	244.34	28.9
プラスチック類	100.08	11.8
新聞紙・雑紙など	144.07	17.0
紙おむつなど	131.98	15.6
繊維類	55.03	6.5
可燃その他	59.19	7.0
合 計	845.78	100.0

表4 越前町全体のごみ組成割合



②一般家庭系可燃ごみの食品廃棄物組成

越前町全体の食品廃棄物の組成を表5に示す。

食品廃棄物全体の68.7%は調理くずだが、32.3%は食品ロスとなっている。食品ロスの中でも、手つかずの食品が71.76 kgで0.3%、食べ残しが39.33 kgで11.1%となっている。

表5 食品廃棄物の組成

大分類	分類	細分類			重量(kg)	割合(%)
食品廃棄物	食品ロス	手つかずの食品	賞味期限付き	期限切れ	10.36	2.9
				期限内	1.33	0.4
				不明	2.56	0.7
			消費期限付き	期限切れ	6.62	1.9
				期限内	0	0.0
				不明	22.94	6.5
		その他の食材			27.95	7.9
		食べ残し	購入したもの (袋や箱入り)	主食	1.81	0.5
				主菜	4.29	1.2
				揚げ物	0.54	0.2
				その他	2.82	0.8
			上記以外	主食	12.4	3.5
				主菜	13.66	3.8
				揚げ物	1.47	0.4
				その他	2.34	0.7
	調理くず				244.34	68.7
合計				355.43	100.0	

*表中、その他の食材は、袋や箱に入っていない、原形を5割以上占めているもの

《参考》

期限の種類	定 義
消費期限	定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他の品質の劣化に伴い安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限を示す年月日をいう。 *期限を過ぎたら食べない方がよい*
賞味期限	定められた方法により保存した場合において、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限をしめす年月日をいう。ただし、当該期限を超えた場合であっても、これらの品質が保持されていることがあるものとする。 *おいしく食べることができる期限*

農林水産省・厚生労働省資料から参照

②一般家庭系可燃ごみの紙類組成

越前町全体の紙類の組成を表 6 に示す。

紙類の中では、新聞紙・雑紙等が 144.07 kg で 52.2% となっており、紙おむつ等が 131.98 kg で 47.8% となっている。

新聞紙・雑紙の中でも、雑紙は 70.03 kg あり、紙類全体の中で 25.4% の割合を占めている。

表 6 紙類の組成

大分類	分類	細分類		重量(kg)	割合(%)
紙類	新聞紙・ 雑紙等	新聞紙		13.20	4.8
		段ボール		15.85	5.7
		紙パック		7.57	2.7
		雑誌		16.26	5.9
		チラシ		21.16	7.7
		雑紙	食品空箱	15.11	5.5
			ダイレクトメール	17.24	6.2
			コピー用紙	10.29	3.7
			封筒・紙袋	7.92	2.9
			その他	19.47	7.1
	紙おむつ等	おむつ類		56.14	20.3
		その他		75.84	27.5
合　　計				276.05	100.0

③一般家庭系可燃ごみのプラスチック類組成

越前町全体のプラスチック類の組成を表 7 に示す。

プラスチック類は、容器包装類が 84.44 kg で 84.4% となっており、非容器包装類が 15.64 kg で 15.6% となっている。

表 7 プラスチック類の組成

大分類	細分類		重量(kg)	割合(%)
プラスチック類	容器包装	ペットボトル	6.04	6.0
		その他	78.40	78.4
	非容器包装		15.64	15.6
合 計			100.08	100.0

④一般家庭系可燃ごみの可燃（その他）・繊維類の組成

一般家庭系可燃ごみの中の可燃（その他）・繊維類の組成を表 8 に示す。

本来、可燃ごみに入ってはいけないものが混入されているため分類上では可燃（その他）とした。

木類は、19.04 kgで 16.6%、繊維類は、55.03 kgで 48.2%、ゴム・皮革類は、7.13 kgで 6.2%、その他の可燃物は、28.41 kgで 24.9%となっている。

本来可燃物でないごみについては、不燃物が 3.98 kgで 3.5%、有害ごみが、0.63 kgで 0.5%混入している。

表 8 可燃（その他）、繊維類の組成

大分類	分類	細分類	重量(kg)	割合(%)	
木類	可燃(その他)	木・草類	16.26	14.2	
		割りばし	2.78	2.4	
繊維類	繊維類	衣類	27.66	24.2	
		布類	27.37	24.0	
ゴム・皮革類	可燃(その他)	ゴム・皮革類	7.13	6.2	
その他可燃物			28.41	24.9	
不燃物		金属類	スチール	0.44	0.4
			アルミ	0.64	0.6
			その他	2.54	2.2
			ガラス類	0.16	0.1
		その他	0.2	0.2	
有害ごみ			乾電池類	0.14	0.1
			ライター・スプレー缶	0.11	0.1
			薬品・油脂	0.38	0.3
合 計			114.22	100.0	

2 地区別ごみ組成

①朝日地区

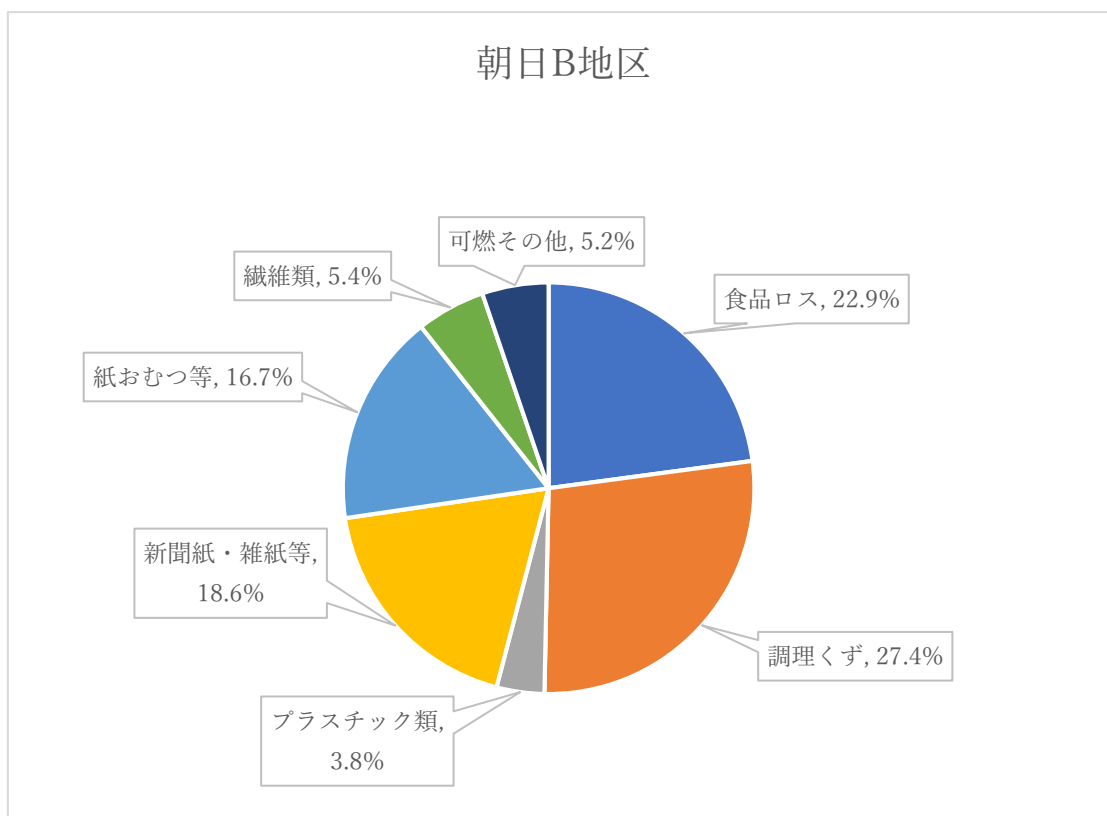
表9に組成分析結果、表10に組成割合を示す。

朝日地区では、調理くずが最も多く全体の27.4%を占めている。次いで、食品ロスが22.9%、新聞紙・雑紙などが18.6%となっている。

表9 朝日地区のごみ組成分析結果

分 類	重量 (kg)	組成割合 (%)
食品ロス	48.55	22.9
調理くず	58.24	27.4
プラスチック類	7.96	3.8
新聞紙・雑紙など	39.47	18.6
紙おむつなど	35.41	16.7
繊維類	11.50	5.4
可燃その他	11.08	5.2
合 計	212.21	100.0

表10 朝日地区のごみ組成割合



②宮崎地区

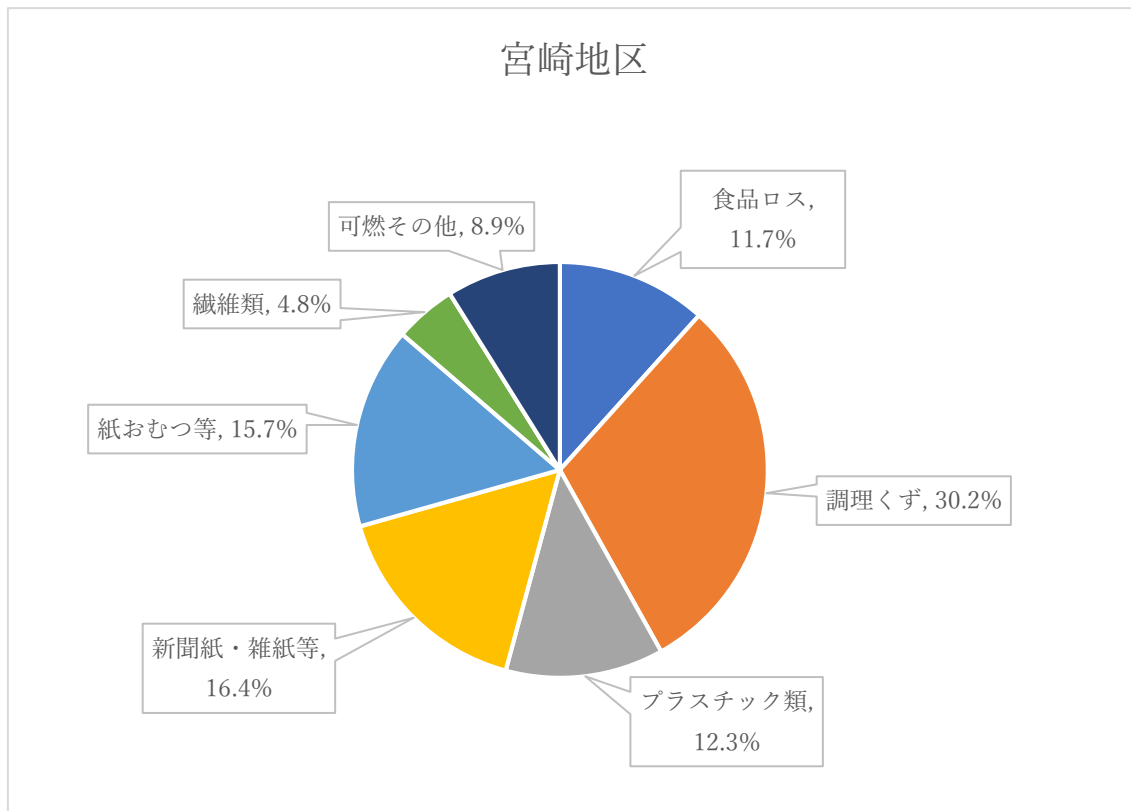
表 1 1 に組成分析結果、表 1 2 に組成割合を示す。

宮崎地区では、調理くずが最も多く全体の 30.2%を占めている。次いで、新聞紙・雑紙などが 16.4%、紙おむつなどが 15.7%となっている。

表 1 1 宮崎地区のごみ組成分析結果

分 類	重量 (kg)	組成割合 (%)
食品ロス	28.94	11.7
調理くず	74.97	30.2
プラスチック類	30.50	12.3
新聞紙・雑紙など	40.72	16.4
紙おむつなど	38.91	15.7
繊維類	11.90	4.8
可燃その他	22.05	8.9
合 計	247.99	100.0

表 1 2 宮崎地区のごみ組成割合



③越前地区

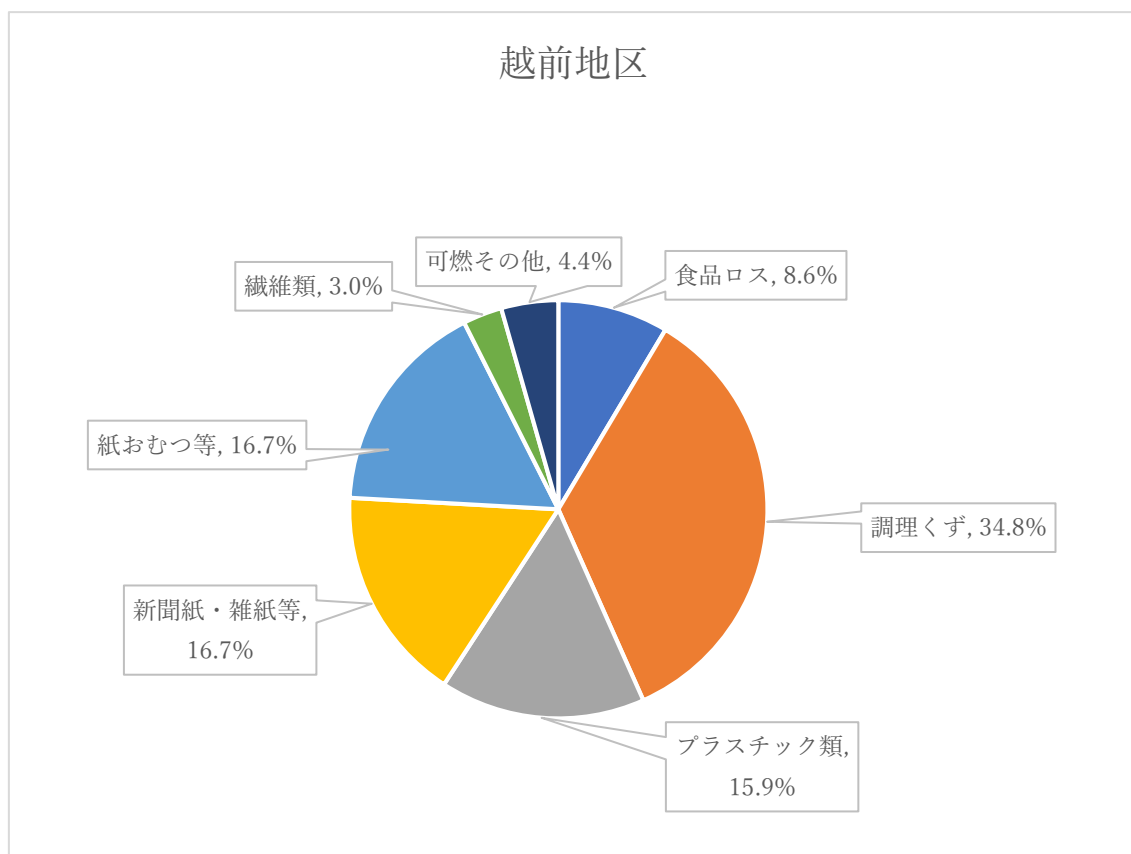
表 1 3 に組成分析結果、表 1 4 に組成割合を示す。

越前地区では、調理くずが最も多く全体の 34.8% を占めている。次いで、新聞紙・雑紙など、紙おむつなどが同率で 16.7% となっている。

表 1 3 越前地区のごみ組成分析結果

分 類	重量 (kg)	組成割合 (%)
食品ロス	13.97	8.6
調理くず	56.73	34.8
プラスチック類	25.90	15.9
新聞紙・雑紙など	27.20	16.7
紙おむつなど	27.22	16.7
繊維類	4.94	3.0
可燃その他	7.19	4.4
合 計	163.15	100.0

表 1 4 越前地区のごみ組成割合



④織田地区

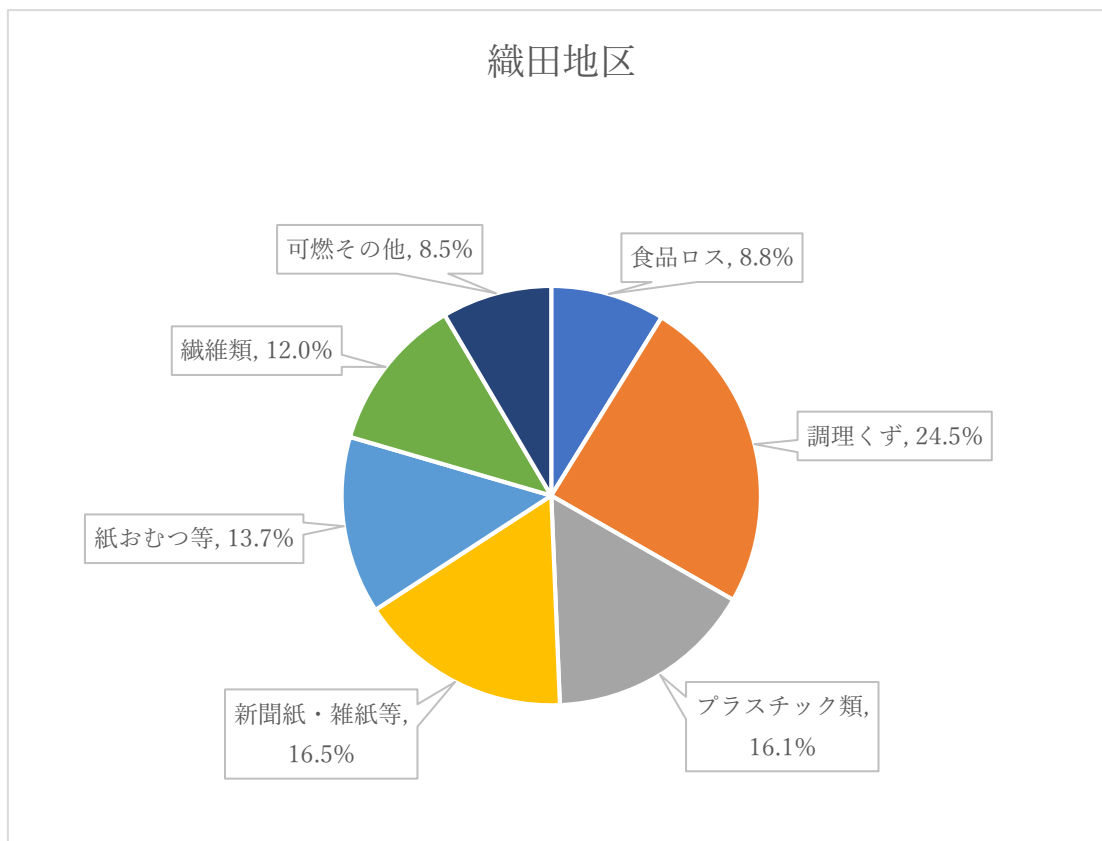
表 1 5 に組成分析結果、表 1 6 に組成割合を示す。

織田地区では、調理くずが最も多く全体の 24.5% を占めている。次いで、新聞紙・雑紙などが 16.5%、プラスチック類が 16.1% となっている。

表 1 5 織田地区のごみ組成分析結果

分 類	重量 (kg)	組成割合 (%)
食品ロス	19.63	8.8
調理くず	54.40	24.5
プラスチック類	35.72	16.1
新聞紙・雑紙など	36.68	16.5
紙おむつなど	30.44	13.7
繊維類	26.69	12.0
可燃その他	18.87	8.5
合 計	222.43	100.0

表 1 6 織田地区のごみ組成割合



3 組成調査結果

①分類別での地区別比較

4 地区を分類別で見ると、4 地区共に調理くずの割合が 24%～35%と最も高かった。食品ロスの割合については、朝日地区 23%、宮崎地区 12%、越前地区 8%、織田地区 9%となっており朝日地区が最も高かった。

新聞紙・雑紙類や紙おむつなどは 4 地区共に 14%～19%と同程度の割合であった。

プラスチック類は、朝日地区 4%、宮崎地区 12%、越前地区 16%、織田地区 16%となっており越前地区と織田地区での割合が高かった。

繊維類は、朝日地区 5%、宮崎地区 5%、越前地区 3%、織田地区 12%となっており織田地区での割合が高かった。

②再資源化物について

越前町全体の組成で、再生可能な紙・雑紙などが 17%、プラスチック類で容器包装に分類できるものが 10%あった。

紙・雑紙などの内容は、新聞 1.6%、段ボール 1.9%、紙パック 0.9%、雑誌 1.9%、チラシ 2.5%、雑紙 8.2%となっており、チラシもあわせて雑紙の割合が高くなっている。

プラスチック類の内容は、ペットボトル 0.7%、プラスチック容器包装が 9.3%となっている。

③可燃（その他）について

越前町全体の組成で、可燃（その他）は 7%となっている。

内容は、木・草類が 1.9%、割りばしが 0.3%、ゴム・皮革類が 0.8%であるが、本来可燃ごみに混入してはならない不燃ごみや有害ごみが 0.5%あった。不燃ごみは、空き缶で、有害ごみは乾電池、ライター、スプレー缶、薬品などであった。

4 組成調査から見てきた越前町の課題

☆調理くずの削減と水切りの徹底

越前町のごみ組成割合の中では調理くずの割合が最も高かった。今回の調査では、水分測定等を行っていないが、生ごみの水切りを徹底することでごみの重量を減らすことができ、焼却炉への負荷を減らすことができることなどから、水切りによるごみ減量化について普及啓発を行うことが必要である。

町で行っている密閉バケツやコンポスト、電動生ごみ処理機購入に対する補助事業の認知度はまだまだ低いため、広報誌やホームページ等だけでなくSNS等を活用して広く制度をPRし、調理くず自体を削減する工夫も必要である。

☆食品ロスの削減

食品ロスの大部分は、賞味期限や消費期限が切れたものである。未利用食品がごみとして排出されないよう、余らないような計画的な買い物や、賞味期限や消費期限についての正しい知識が深まるような普及啓発が必要である。

また、未利用食品の活用等についても実施していく必要がある。

☆紙資源リサイクルの強化

可燃ごみの中に、まだまだ紙資源が混入している状況であることが分かる。雑紙もリサイクル可能な資源であることの普及啓発が必要である。

現在、越前町連合婦人会も雑紙分別に力を入れている。こういった各種団体とも連携するなどして普及啓発を進めていかなければならない。

また、各地区ごみステーションだけでなく、古紙回収の拠点となる場所の整備等についても行う必要がある。

☆容器包装プラスチックの適正分別とプラスチックごみの削減

可燃ごみの中に、リサイクル可能な容器包装プラスチックごみが混入している。適正な分別についての普及啓発が必要である。

今後は、令和3年6月に可決された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されることから、従来可燃ごみとして排出していたプラスチックごみのリサイクルについて推進していかなければならない。

越前町一般家庭系可燃ごみ組成調査報告書

令和4年2月発行

越前町民生部住民環境課

〒916-0192

福井県丹生郡越前町西田中 13-5-1

TEL 0778-34-1234（代表）